



# 株式会社アドバンスト・メディア

## 平成29年3月期 決算説明会資料

2017年5月10日



# 見通しに関する注意事項

- 本資料に記載された見解、見通し、ならびに予測等は、資料作成時点での弊社の判断であります。
- その情報の正確性を保証するものではありません。市場環境等の様々な要因等により、今後の業績は本資料の内容と異なるものとなる可能性があります。ご承知おきのほど、お願い申し上げます。



# 1. 業績の概況

取締役 経営管理本部長  
立松 克己



# 1-1. 連結損益計算書

単位：百万円

	平成29年3月期		平成28年3月期		対前年増減		主な要因
	金額	比率	金額	比率	金額	比率	
売上高	2,581	100.0%	2,291	100.0%	290	12.6%	第一の成長エンジンについてはほぼ当初計画通り、一方で第二の成長エンジンでは当初計画を下回る
原価	918	35.6%	889	38.8%	29	3.3%	ほぼ計画通りに推移
売上総利益	1,662	64.4%	1,401	61.2%	261	18.6%	ほぼ計画通りに推移
販売管理費	1,740	67.4%	1,669	72.9%	71	4.3%	ほぼ計画通りに推移
営業利益	△77	-3.0%	△267	-11.7%	190	-	第二の成長エンジンの売上高の未達により赤字
経常利益	△118	-4.6%	△297	-13.0%	179	-	為替差損42百万円を計上
親会社に帰属する当期純利益	△103	-4.0%	△175	-7.6%	72	-	

## 1-2. 業績予想の修正

### 平成29年4月21日付で平成29年3月期通期連結業績予想数値を修正し開示

**売上高**：第二の成長エンジンが当初計画を下回ったため

**営業利益**：売上総利益および販売管理費は当初計画通りに推移したものの、売上高が当初計画を下回ったため

**経常利益・当期純利益**：設定していた為替レートから円安になり為替差損が大幅に縮小

(金額の単位：百万円)

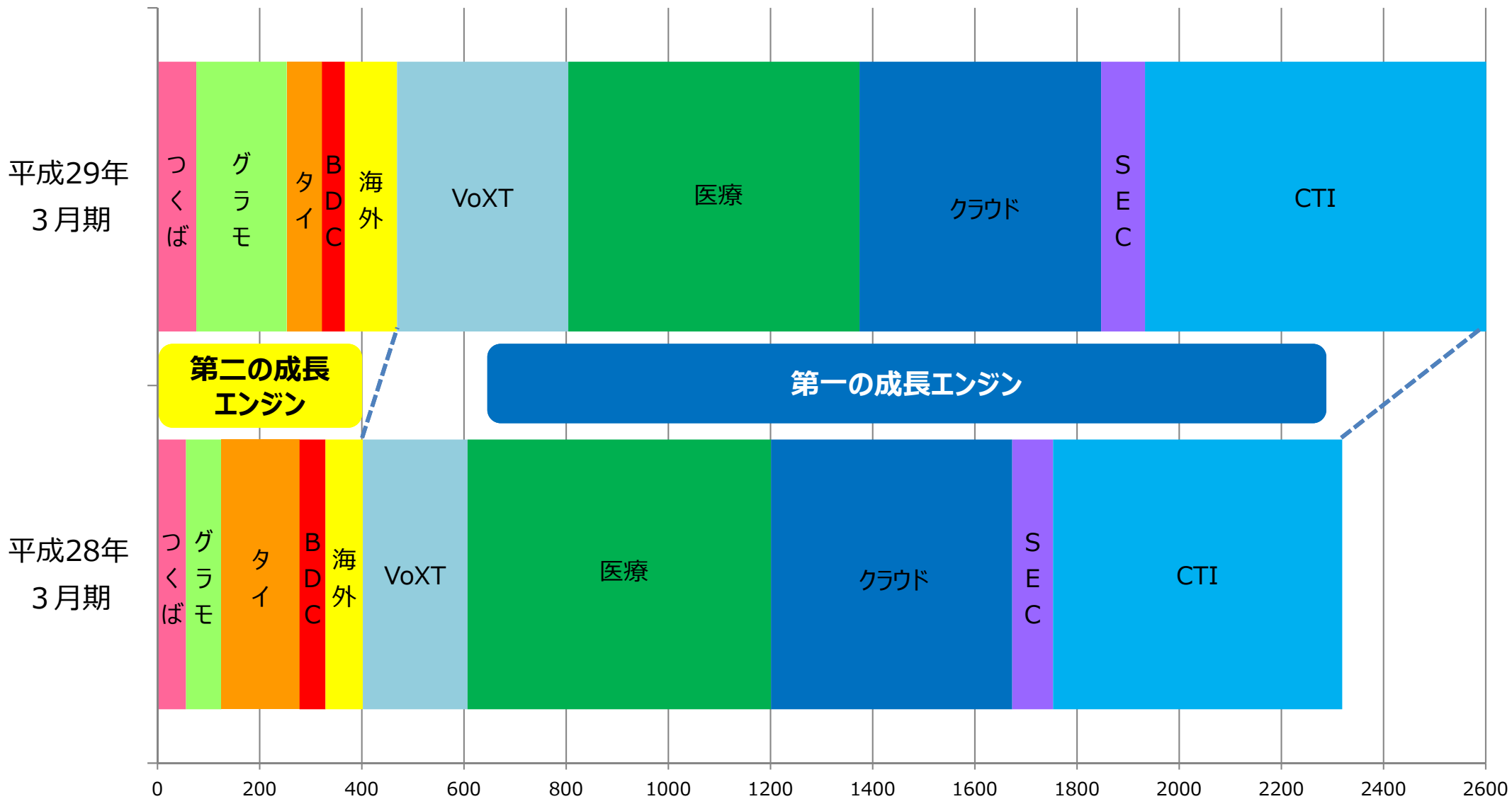
	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	2,900	30	△252	△257	△16.13円
今回修正予想 (B)	2,580	△77	△111	△96	△6.03円
増減額 (B - A)	△320	△107	141	161	-
増減率 (%)	△11.0	-	-	-	-
(ご参考) 前期実績 (平成28年3月期)	2,291	△267	△297	△175	△11.03円

# 1-3. 分野別の売上実績①

単位：百万円

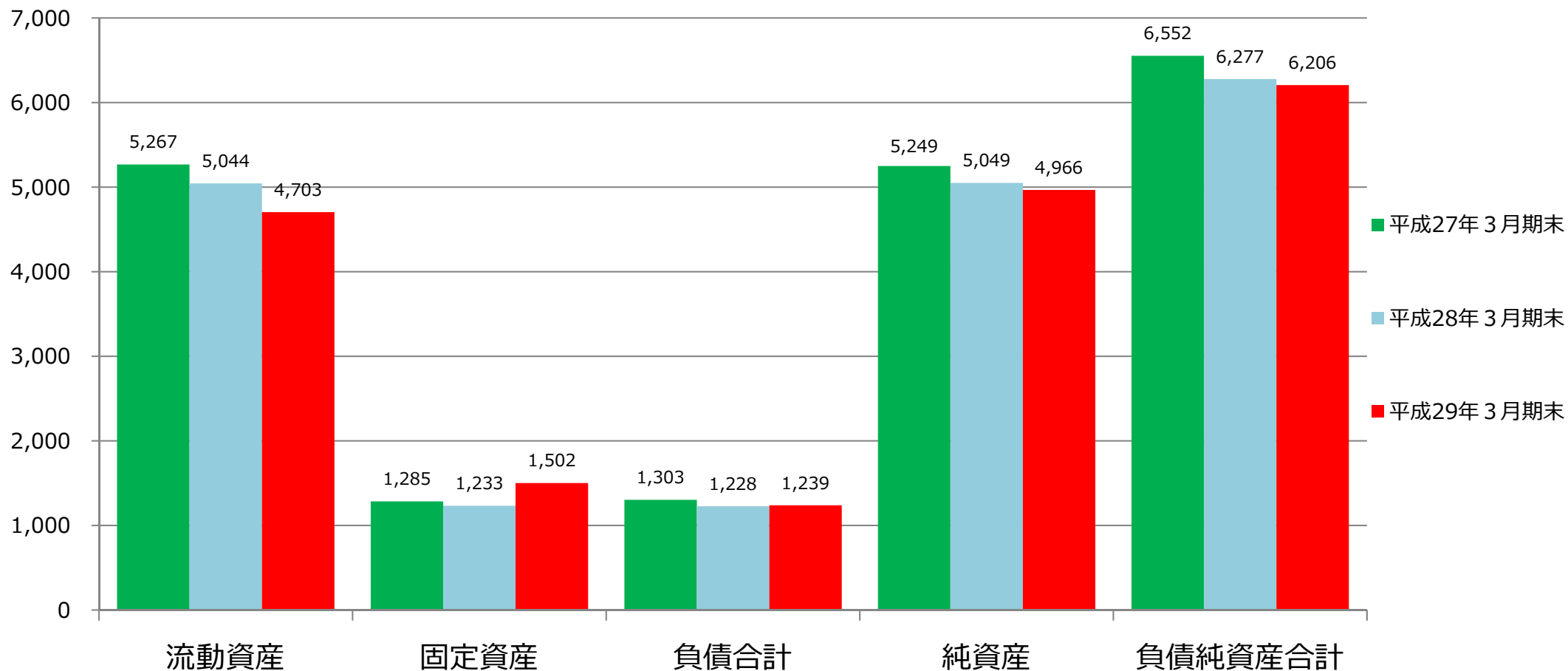
		平成29年3月期		平成28年3月期		対前年増減		
						金額	比率	
第一の成長 エンジン	CTI事業部	668	25.9%	567	24.7%	101	17.8%	
	SEC事業部	86	3.3%	81	3.5%	5	6.2%	
	クラウド事業部	473	18.3%	472	20.6%	1	0.2%	
	医療事業部	570	22.1%	594	25.9%	-24	-4.0%	
	VoXT事業部	335	13.0%	205	8.9%	130	63.4%	
第二の成長 エンジン	海外事業部	102	4.0%	73	3.2%	29	39.7%	
	ビジネス開発センター	45	1.7%	51	2.2%	-6	-11.8%	
	連結子会社	AMIVOICE THAI	69	2.7%	153	6.7%	-84	-54.9%
		グラモ	177	6.9%	69	3.0%	108	156.5%
		速記センターつくば	76	2.9%	57	2.5%	20	33.3%
	連結調整	-28	-1.1%	-32	-1.4%	4	-	
合計		<b>2,581</b>	<b>100.0%</b>	<b>2,291</b>	<b>100.0%</b>	<b>290</b>	<b>12.6%</b>	

# 1-4. 分野別の売上実績②



# 1-5. 連結貸借対照表

単位：百万円



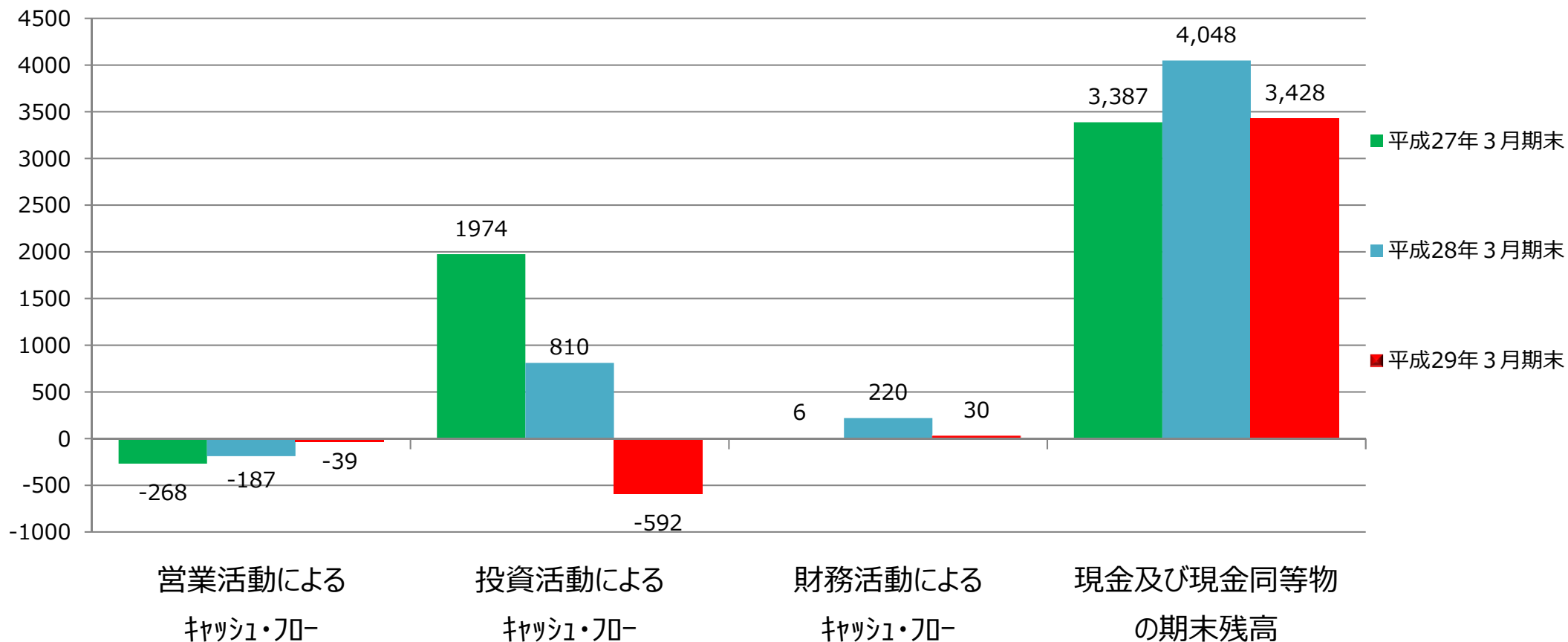
## 増減の要因

- 流動資産：現金および預金の減少
- 固定資産：投資有価証券、ソフトウェアおよびソフトウェア仮勘定の増加



# 1-6. キャッシュフロー計算書

単位：百万円

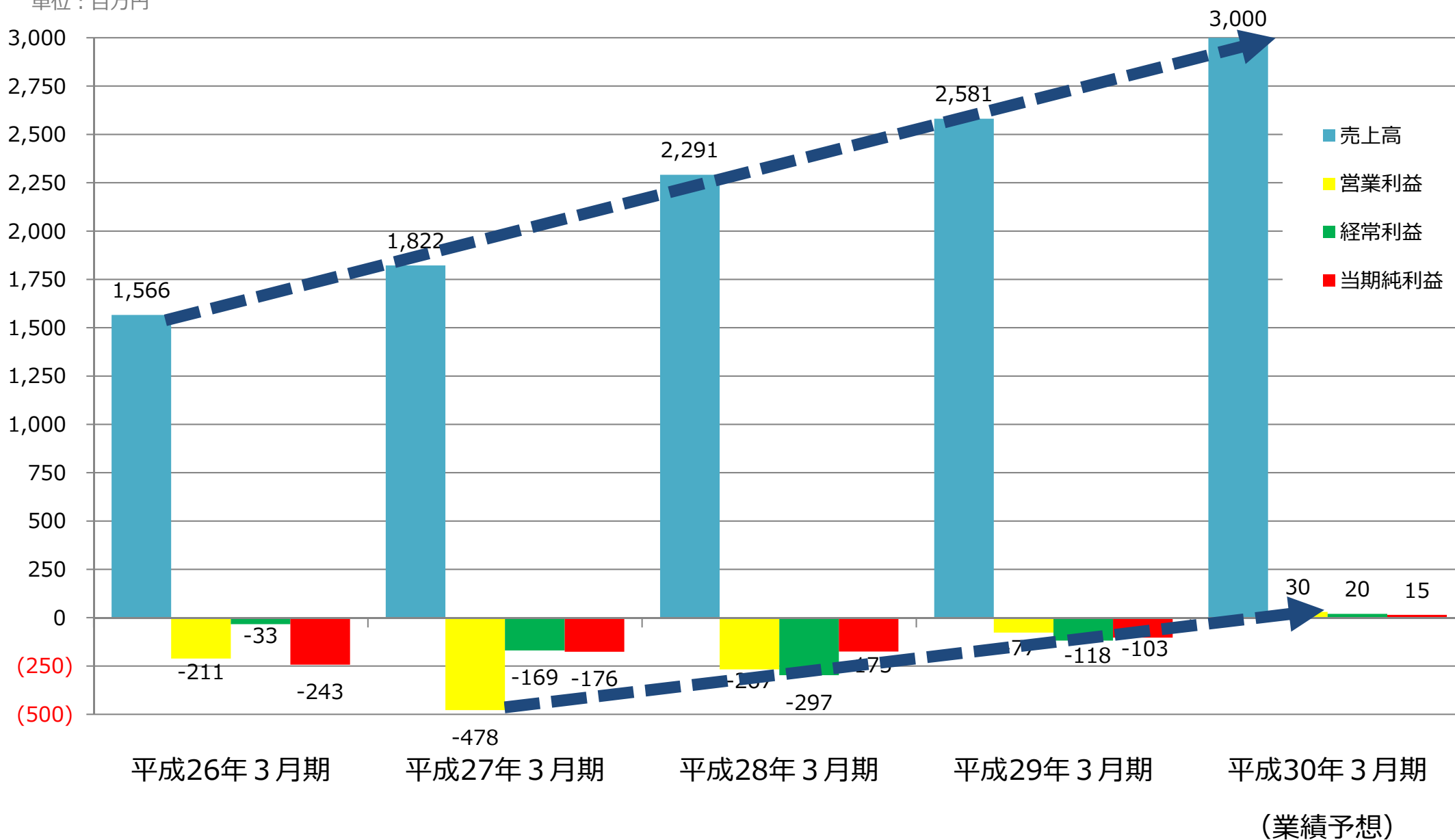


## 増減の要因

- 営業活動：当期純損失およびのれん償却額の減少
- 投資活動：定期預金の預入および投資有価証券の取得による支出
- 財務活動：非支配株主からの払込の減少

# 1-7. 業績の推移および今期計画

単位：百万円





## 2. 事業展開の概要

代表取締役会長兼社長  
鈴木 清幸



## 2-1. 事業拡大の取り組み実績

### 既存コア事業のさらなる成長



CTI事業／医療事業／VoXT事業  
クラウド事業／SEC事業

売上高

2,132百万円  
前期比 11.2%増

営業  
利益

前期比約8.2倍  
増益

当初計画通りに増収・増益を  
実現

### 新規ビジネスの創生・M&A・海外事業



ビジネス開発センター／海外事業  
AMIVOICE THAI／グラモ／速記センターつくば

売上高

469百万円  
前期比 16.3%増

営業  
利益

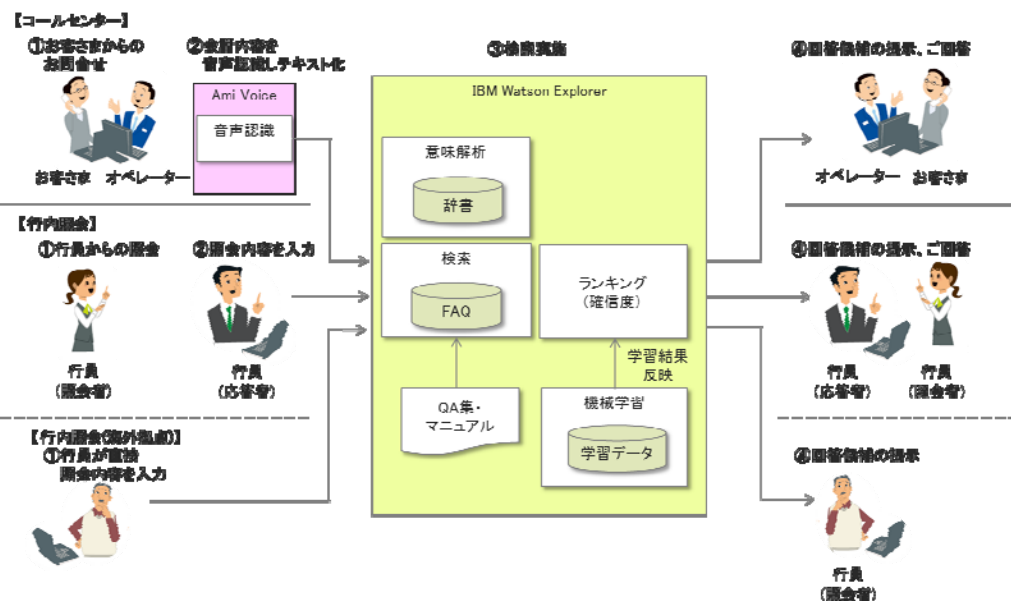
前期比68%  
赤字幅を縮小

売上高、営業利益ともに当初  
計画を下回る

## 2-2. 事業トピックス①

### CTI事業部

- オペレーターの対応品質や業務効率化に対して、人工知能や音声認識技術を活用するニーズが高まり、当社の実績が評価され導入社数が増加
- 株式会社三井住友銀行のコールセンター全席でIBM Watsonと**AmiVoice**<sup>®</sup>のリアルタイム連携を初めて実現



### SEC事業部

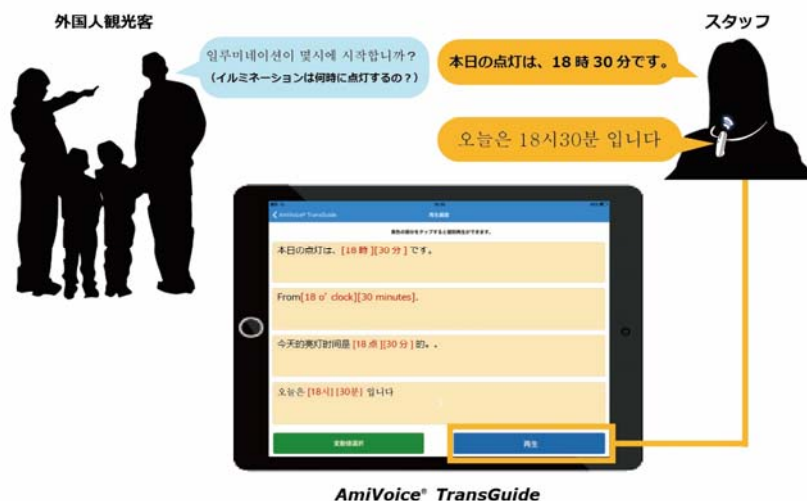
- AI対話ソリューション「**AmiAgent**<sup>®</sup>」の対話技術を向上
- 株式会社U-NEXTマーケティングのコンタクトセンターサービス「AIコンシェルジュ」に「**AmiAgent**<sup>®</sup>」を提供
- LINE株式会社が提供する法人向けカスタマーサポートサービス「LINE Customer Connect」と「**AmiAgent**<sup>®</sup>」の連携が決定



## 2-3. 事業トピックス②

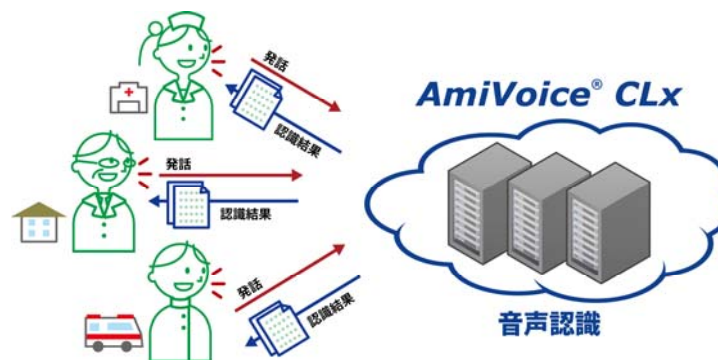
### クラウド事業部

- 製造・物流分野での音声入力の需要が増大し、音声認識・対話に便利なウェアラブル・マイク端末「**AmiVoice® Front WT01**」を中心にした音声認識クラウドサービスの販売が好調に推移
- 音声認識技術を活用し、話した言葉を日本語・英語・中国語・韓国語の4ヶ国語に翻訳して表示・アナウンスする多言語翻訳サービス「**AmiVoice® TransGuide**」の販売を開始



### 医療事業部

- 薬剤師が行う調剤や服薬指導の内容を声により効率的に記録する調剤薬局向けパッケージ製品の販売が好調に推移
- 主力製品である「**AmiVoice® Ex7**」は、主力代理店からの販売が伸び悩み
- 医療・調剤・介護向けのクラウド型音声入力サービス「**AmiVoice® CLx**」の拡販に向けたパートナー戦略の推進や、医療カンファレンス向け音声認識議事録作成支援ソフトウェア「**AmiVoice® Medical Conference**」の販売開始



## 2-4. 事業トピックス③

### VoXT事業部

- 働き方改革の施策の一つとしてITを活用した業務効率化の取り組み等から、音声認識技術を活用した議事録作成や文字起こし需要が高まり、導入件数が増加
- 特に自治体と並行してテレビ局や新聞社などの報道機関、その他の民間企業での導入が拡大



### 海外事業部

- コールセンター向け音声認識ソリューション「**AmiVoice® Communication Suite2**」中国語版の、台湾および中国の大手生命保険会社への導入に成功
- 中国の大手生命保険会社のコールセンターで導入された活用事例が、中国金融電子化会社が主催する「2016年 金融技術サービス優秀賞」で開発創新貢献賞を受賞

### ビジネス開発センター

- 人手不足の慢性化が深刻化している建設業界に対して、音声認識を活用したボイス検査ソリューションや、建設・不動産業界向けの音声認識議事録作成クラウドサービスなどのサービスラインナップを拡充し、ユーザー数が増加

## 2-5. 事業トピックス④

### 連結子会社 (AMIVOICE THAI)

- タイ大手通信事業者であるTrue グループとの合併会社True Voice Company Limited (タイ王国) による新規顧客の獲得に苦戦し、計画していた事業展開が遅延

### 連結子会社 (つくば)

- 自治体向け・裁判所向け・民間向け案件の受注獲得が進む

### 連結子会社 (グラモ)

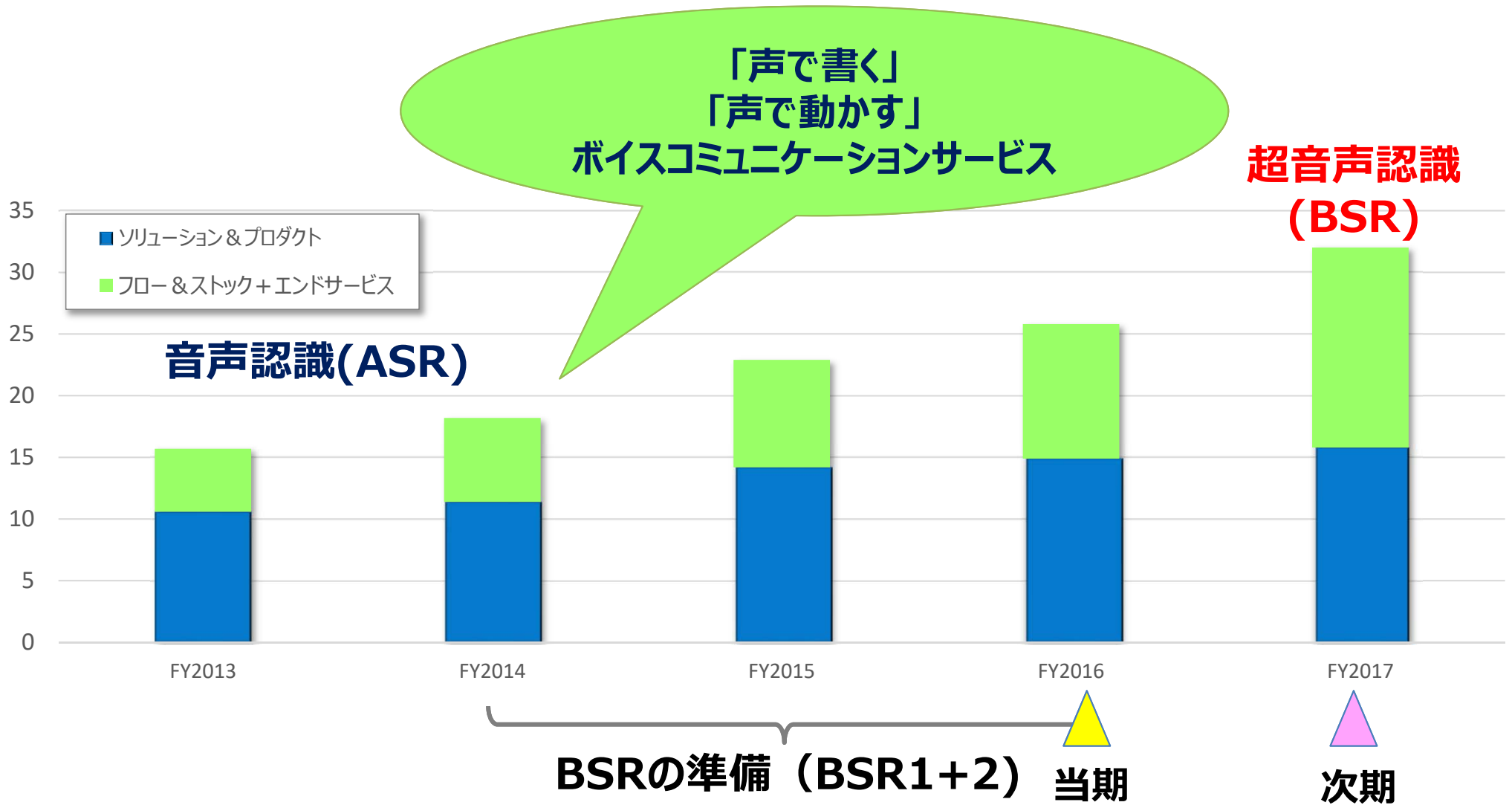
- スマートフォンによる家電制御機器「iRemocon」をベースに、株式会社レオパレス21と「Leo Remocon」を共同開発し、レオパレス21の新築全戸に標準装備が決定し納品を進める



- ソフトバンクコマース&サービス株式会社とスマートメーターと連携し30分毎の電気の使用量/料金を確認することができるHEMS「iRemocon Wi-Fi (SM)」を共同開発し販売を開始



## 2-6. 超音声認識(BSR)の導入フェーズへ



AmiVoice®クラウドサービス(ACS)により「飛躍的な売上増大」へ踏み出す

## 2-7. 超音声認識(BSR)とは

### ● 音声認識をコアとした超音声認識(BSR)

- BSR (Beyond Speech Recognition) とは従来の音声認識(ASR)を超えること、あるいは、超えた音声認識アプリ/サービスのこと。

従来の音声認識アプリ・PS (プロダクト・ソリューション) に、人工知能などで価値増幅された AmiVoice®クラウドサービスを加え、これらをさらにユーザーにとってなくてはならないものにする、あるいは、出来上がったものこと。

- BSR1とは5つの既存コア事業をBSRで価値増幅させること、あるいは、価値増幅させた事業体のこと。
- BSR2とは適用する『領域』『地域』『時間』の拡大・拡張を

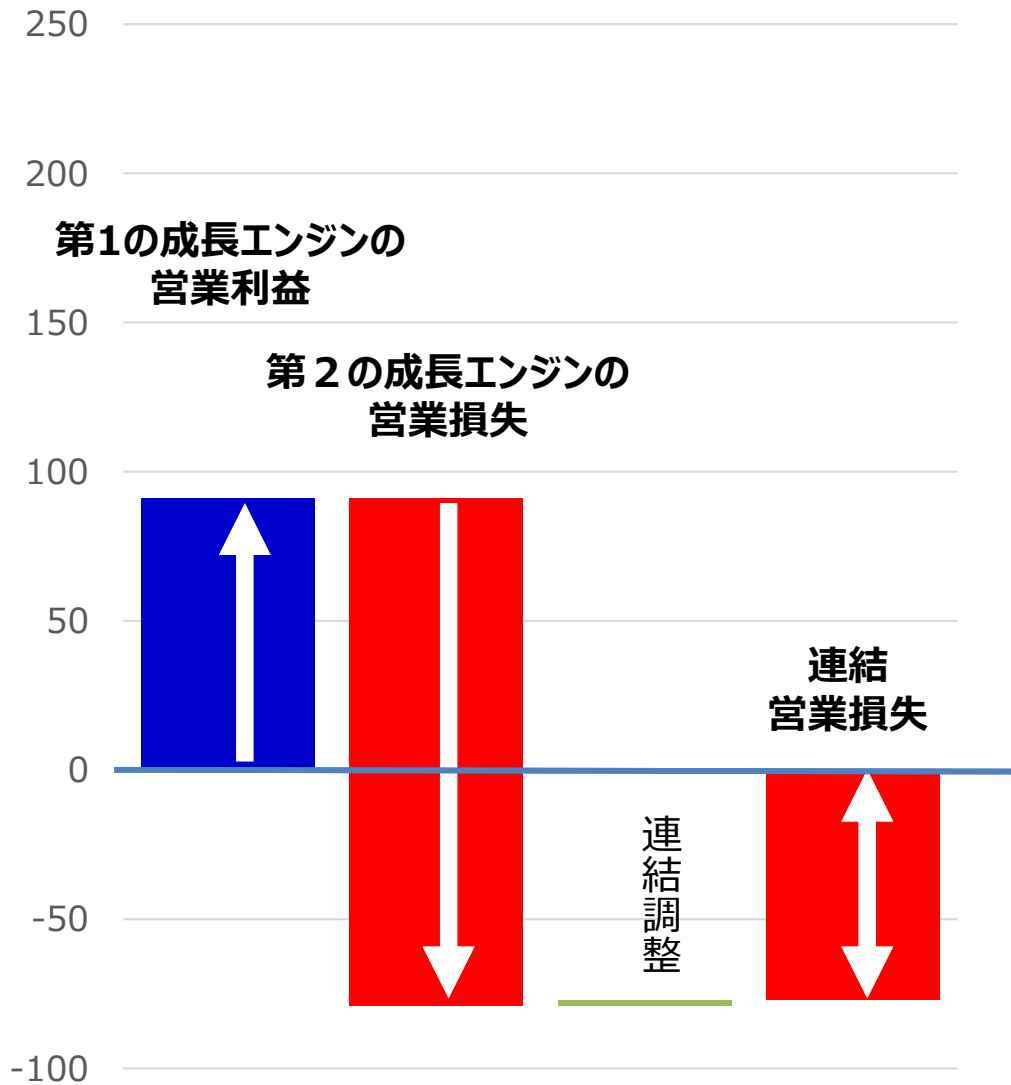
- ①M&A (事業戦略部)
- ②グローバル化 (海外事業部)
- ③ビジネス創造 (BDC)

CAGR	期間	BSR1	BSR2	単体	連結
準備	FY14-16	14 %	54 %	17 %	18 %
導入	FY17-19	19 %	58 %	22 %	28 %

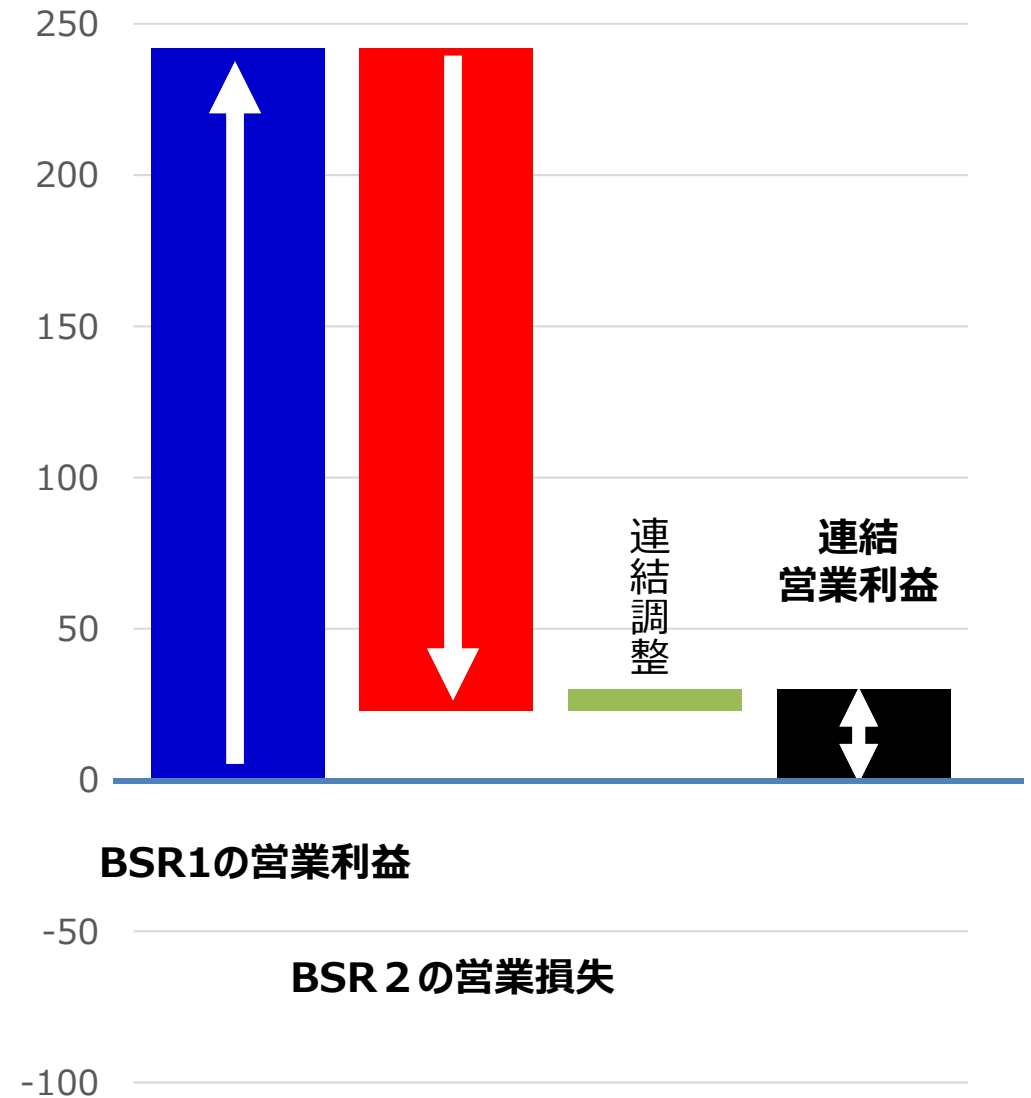
で行うこと、あるいは、これを行う事業体のこと。

## 2-8. 営業利益黒字化の実現

### 平成29年3月期営業損失の状況



### 平成30年3月期営業利益の計画



## 2-9. 平成30年3月期連結業績予想

### 売上高3,000百万円、営業利益30百万円、黒字化を実現

BSR1は既に増収増益基調である。BSR2も子会社のグラモのみが増収減益、その他は増収増益、あるいは、増収減損の計画である。BSR1のさらなる収益増によってBSR2の赤字を吸収し、当社グループ全体の営業利益での黒字化の実現を目論んでいる。

(金額の単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
業績予想数値	3,000	30	20	15	0.94円
(ご参考) 前期実績 (平成29年3月期)	2,581	△77	△118	△103	△6.48円